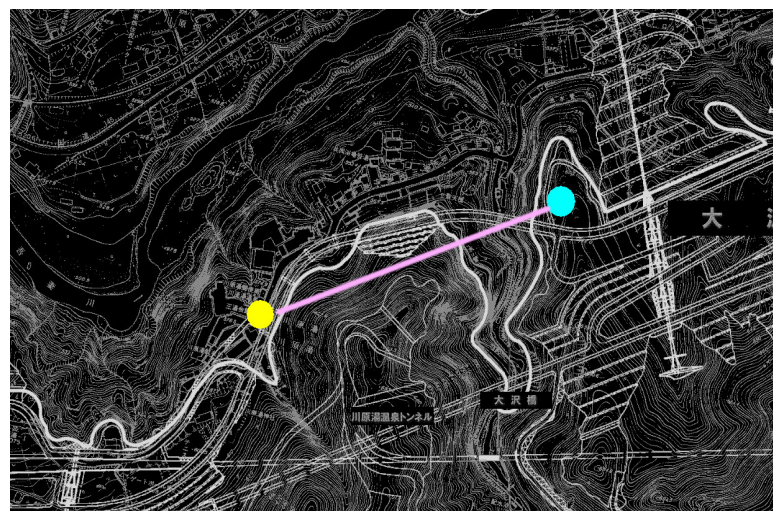


“ゲニウス・ロキ”という言葉を知っているだろうか？“ゲニウス・ロキ”とは、ラテン語の「地霊」「土地霊」と訳される。よく建造物の設計や都市計画に反映させるとき使われる言葉なのだが、なかなかうまくいかないのが現状だと思う。場所の固有性を読み込み形にしていくことは、現代の私達にはなかなか難しい作業の一つなのである。

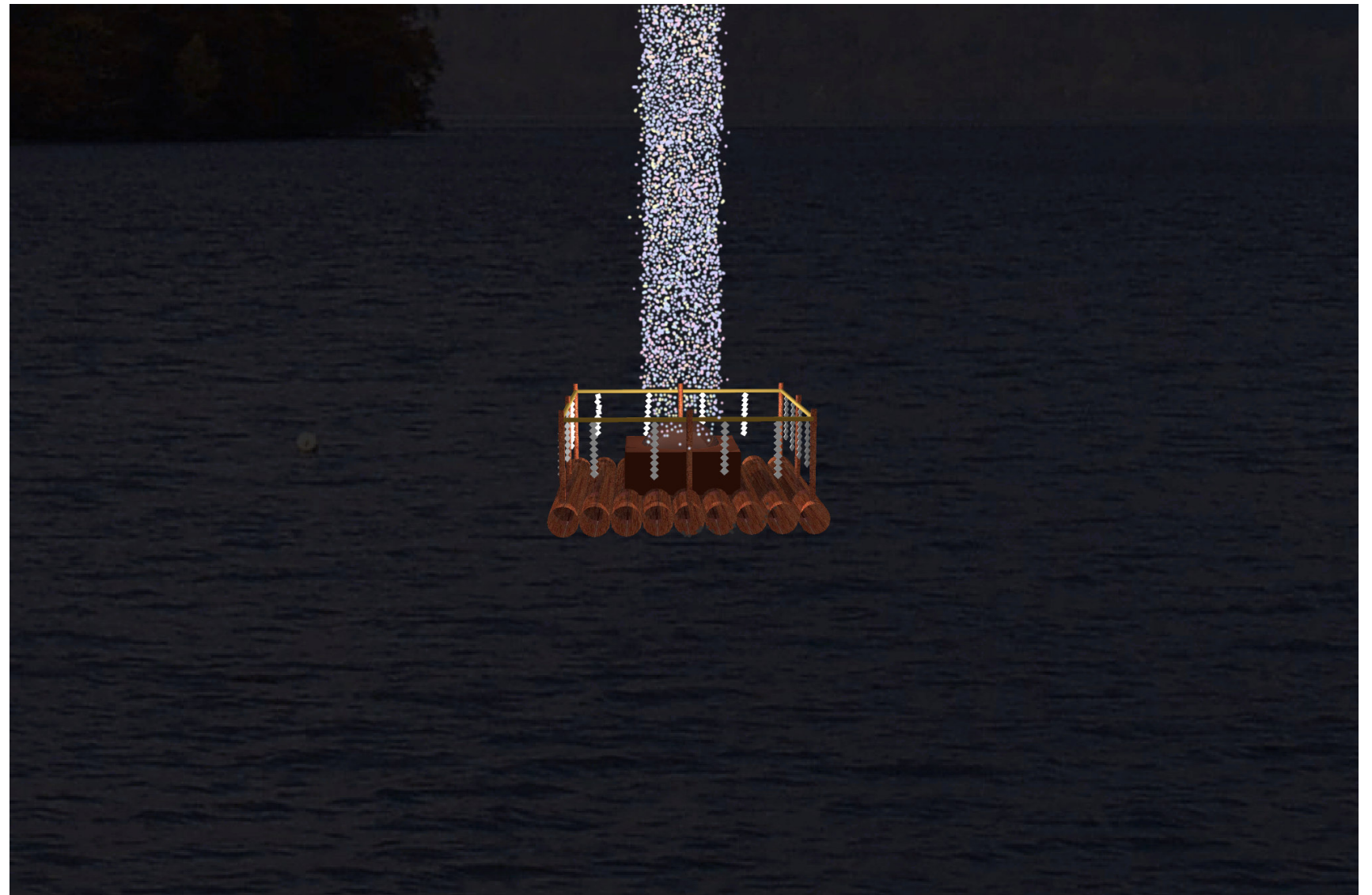
それでは現在の川原湯温泉の場合はどうであろうか。道は山の形に忠実に沿って歩いて歩くほど風景が変わり飽きることがない。建物も奇抜なものも少なく、この土地になじんでいる。これは5年や10年で出来るものではない。そして川原湯温泉神社や不動尊、道祖神、聖天様など、これらは全て土地の持っている力のようなものが形になっている。そしてそれらの魂の叫びが「湯かけ祭り」だ。まさに“ゲニウス・ロキ”が呼び覚まされる行為で、ここに住んでいる人達（観光客含め祭りに参加した人達）が自分自身を何者なのかを再確認する。

新しい川原湯温泉は、はたして“ゲニウス・ロキ”を感じることができるのであろうか？場所を失った「湯かけ祭り」に魂は宿るのだろうか？

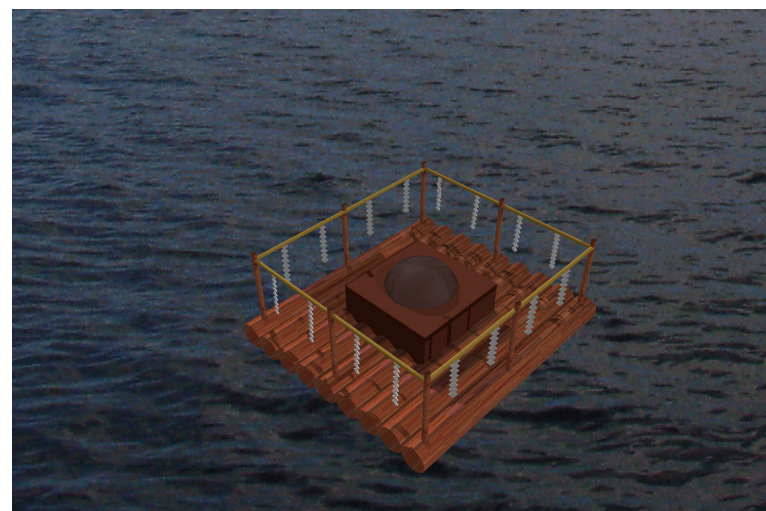
古い神社は後方の山自体を神（神殿）としていた。ならば一夜かぎり、沈んでいった玉石（玉湯）から、一閃の光を天に帰らせ神社でいう後方の山に見立てることは出来ないであろうか？一年に一度「湯かけ祭り」の日、聖地に灯を灯すことが出来れば“ゲニウス・ロキ”を再び呼び覚まされる歌を聴く事ことになるであろう。



祭殿と鏡光殿の位置関係図



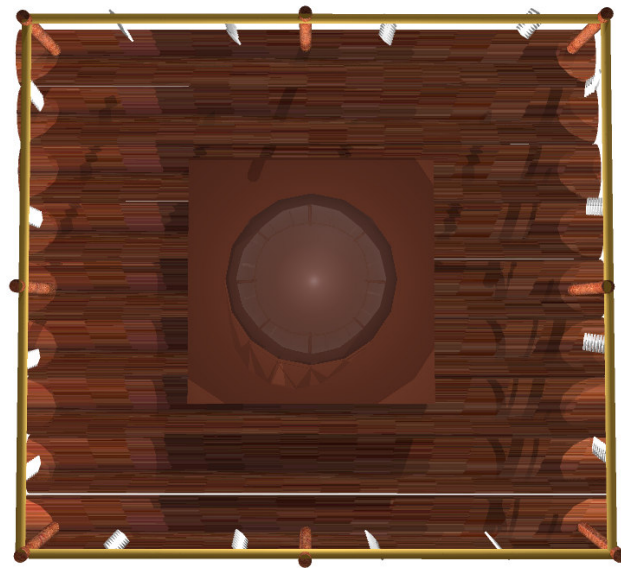
② 鏡光殿発光



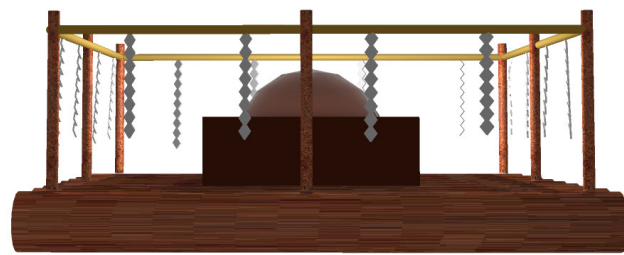
① 夕刻、鏡光殿設置



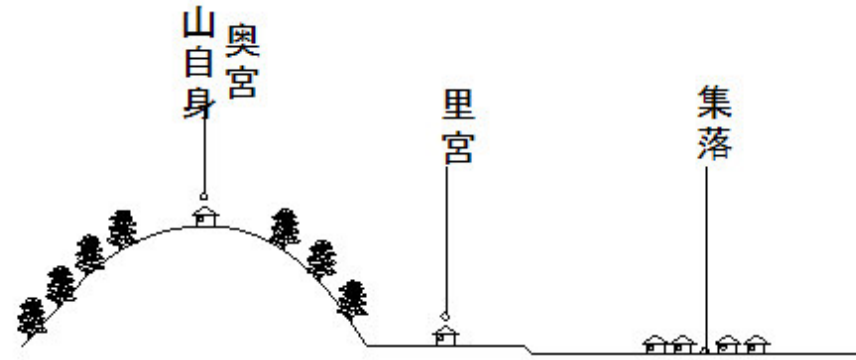
③ 祭殿は鏡光殿の軸線上に設置



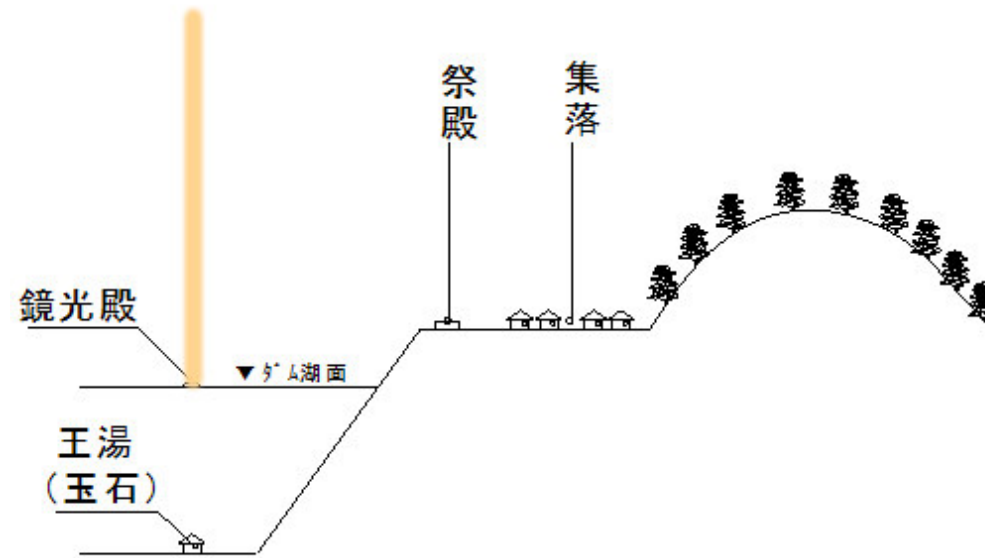
鏡光殿平面図



鏡光殿立面図



古神社における空間概念図



川原湯温泉空間概念図 (提案)

湯かけ音頭

1, ヤアー 正月二十日にゃ どなたもおいで
サテ 上州川原湯 湯かけの祭 ソレ

メデタヤ メデタヤ オシャシヤンのシャン
オヤ オシャシヤンのシャン

2, ヤアー そろった そろったよ 裸で手桶
サテ かけ声 勇んで湯煙立てて ソレ

メデタヤ メデタヤ オシャシヤンのシャン
オヤ オシャシヤンのシャン

3, ヤアー 大寒 小寒 何でもないよ
サテ みんなで湯かけの音頭を唄や ソレ

メデタヤ メデタヤ オシャシヤンのシャン
オヤ オシャシヤンのシャン

4, ヤアー 川原湯 湯の神 にわとり奉り
サテ かけろ かけろよ みんなでそろて ソレ

メデタヤ メデタヤ オシャシヤンのシャン
オヤ オシャシヤンのシャン

5, ヤアー 湯かけ祭の しぶきを浴びりゃ
サテ 今年や 災難 厄除けできて ソレ

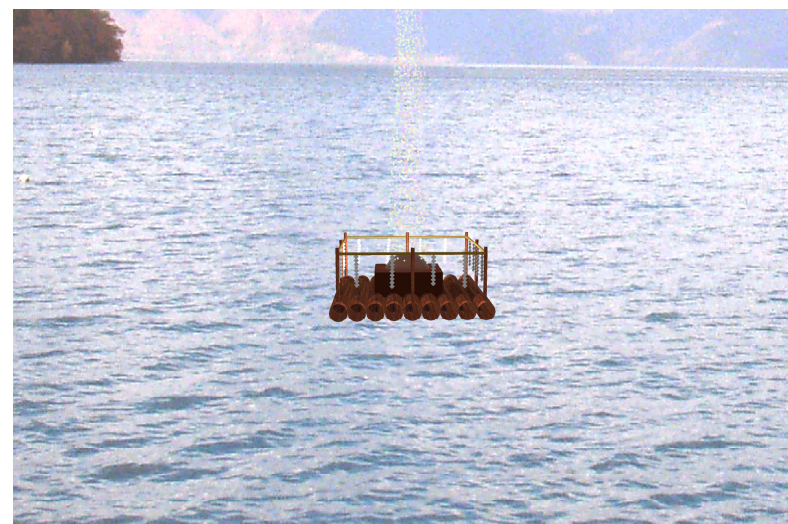
メデタヤ メデタヤ オシャシヤンのシャン
オヤ オシャシヤンのシャン

6, ヤアー 湯かけて 唄って 唄ってかけりゃ
サテ やがて 明るい朝日が昇る ソレ

メデタヤ メデタヤ オシャシヤンのシャン
オヤ オシャシヤンのシャン



④ 湯かけ祭り開始！！



⑤ 祭りが終わると共にしたがって光が見えなくなる